

「就農相談のデジタル化で、相談者の
就農イメージの具体化に役立てたい！」

実証実験報告書

株式会社 エスユーエス

×

農業水産局 農業大学校

1. 実証実験の概要

- 背景・目的
- 対象となる業務の全体像
- 目標・KPI

2. 実証実験の結果

- KPIに関する結果
- 工夫したポイント
- 実証実験で得られた発見

3. 課題と今後の展開

- サービス/システムにおける課題と解決策
- 導入に向けての課題と解決策

4. 参考資料

- 成果物（制作物）紹介
- サービスの紹介
- メディア掲載事例

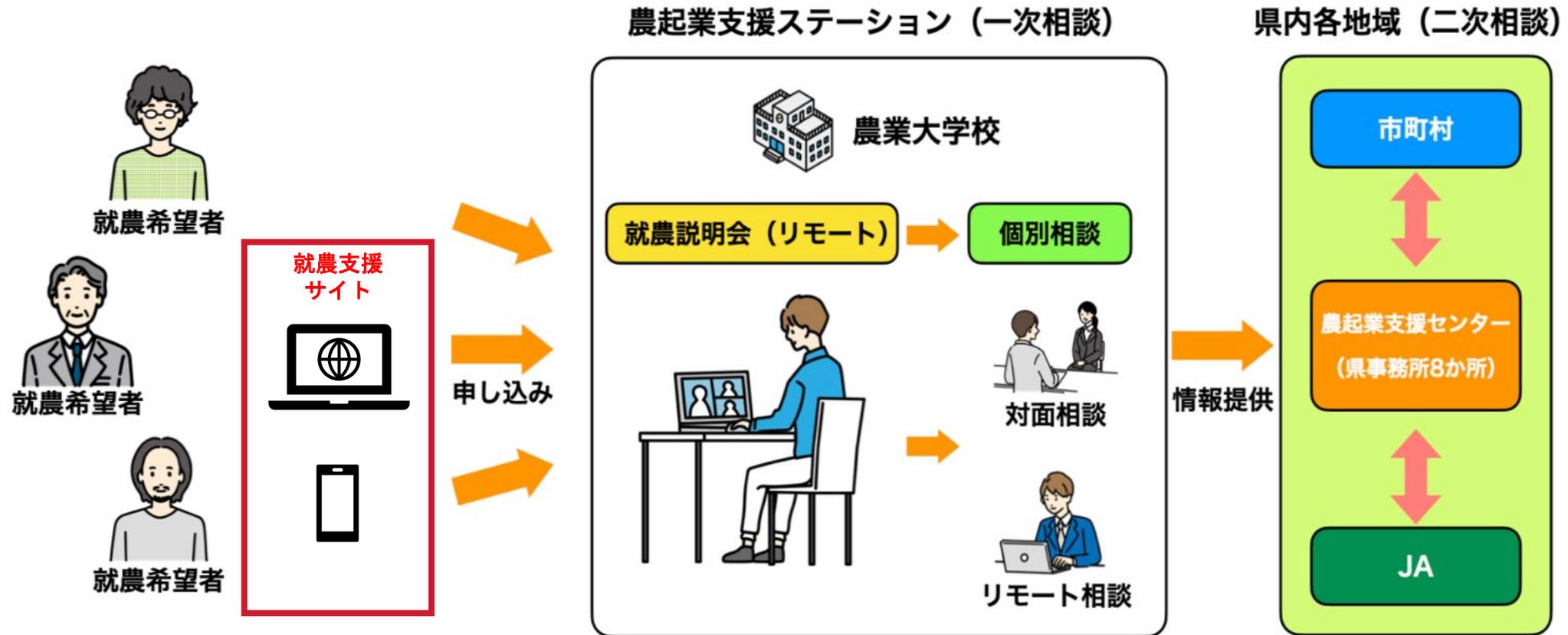
1.実証実験の概要

愛知県の農業従事者の現状

愛知県では、基幹的農業従事者（普段、仕事として主に自営農業に従事している者）が、5年間で15,289人（27.6%）減少しています。また、担い手の高齢化が加速していることから、担い手の確保・育成が急務です。そこで県内において2021年度から農業大学校内に農起業支援ステーションを設置し、就農希望者に対する支援体制強化を図ってきました。しかし、相談総数に対し、就農が具体化する相談は少なく、就農希望者が農業経営への理解を深める情報を得て、具体的な相談につなげることが取組のねらいです。

取組への思い

農業を志す方々が憧れや理想ではなく、「実現可能な夢」として農業に取組めるように情報を提供し、愛知県の農業者の確保と農業の発展に貢献したいと考えています。愛知のものづくりは製造業だけではなく、「若い担い手がたくさんいて、農業も全国トップクラスである」と認知してもらえる産業に育てたいと考えています。



本実証実験で新規構築したWebサイト

No.	内容	比較数値・目標数値算出ロジック	目標数値 (KPI)
01	愛知県のホームページ『愛知県で農業を始めたい人へ』のpv数 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/aichi-nougyou.html	(比較数値) 722pv →2023年農大サイトトップページ月平均pv数×実証期間係数 (0.75 ※1) (目標数値算出ロジック) →比較数値×告知効果 (1.12 ※2) + 農大 トップページpv数	809pv
02	愛知県のホームページ『説明会の申込み』のpv数 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/aichi-nougyou-setumeikaimoushikomi.html	(比較数値) 149pv →2023年農大サイト説明会の申込みページ月平均pv数×実証期間係数 (0.75 ※1) (目標数値算出ロジック) →比較数値×告知効果 (1.12 ※2)	166pv
03	就農支援サイトのバーチャル農業体験者数	(目標数値算出ロジック) →就農支援サイトpv目標数の30%	243人
04	就農支援サイトのバーチャル農業体験完了者数	(目標数値算出ロジック) →バーチャル農業体験者目標数の20%	49人
05	就農支援サイトアンケートによる「コンテンツごとの満足度」	各コンテンツ「就農支援サイト全般」「おしえてあいちさん」「バーチャル農業体験」ごとの満足度 (1.全く参考にならなかった、2.あまり参考にならなかった、3.少しは参考になった、4.参考になった) が4段階中3以上の割合	4段階中3以上の割合 60%以上
06	バーチャル農業体験アンケートによる「農業の現実への理解度」	農業の現実への理解度 (1.全く深まっていない、2.あまり深まらなかった、3.少し深まった、4.深まった) が4段階中3以上の割合	4段階中3以上の割合 60%以上

※1 実証期間係数

本実証期間は 11/14 (木) ~ 12/4 (水) の3週間、1か月4週を標準とした場合の係数 (3週/4週)

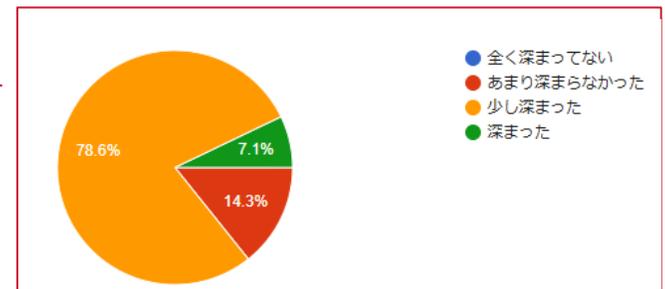
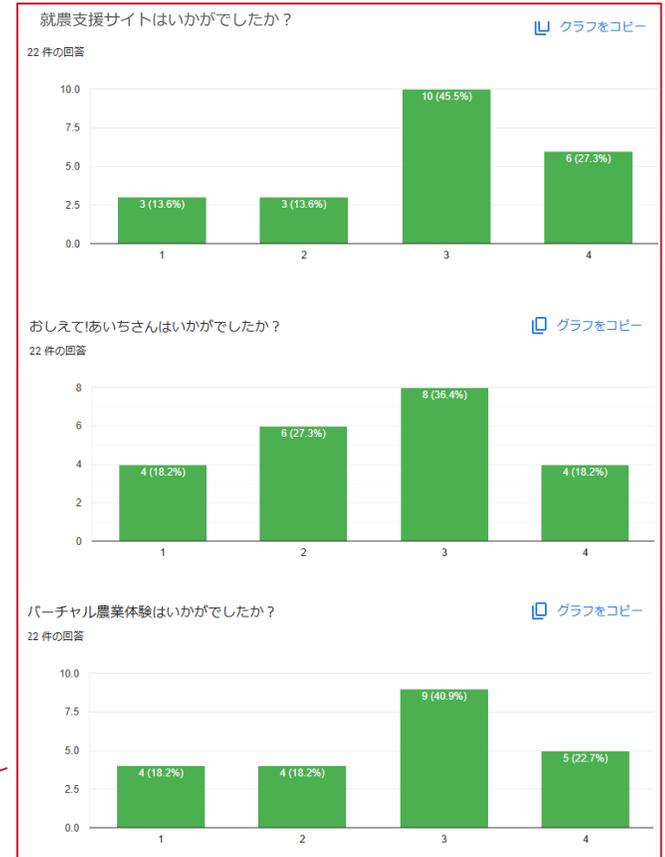
※2 告知効果 以下施策の合計値

【農大施策】農大Webページ新着情報(0.01)、農大Instagram (0.01)、11/21,12/3 就農説明会 (0.03)、県庁掲示板 (0.02)、農大研修生への紹介 (0.03)、11/23マイナビ農林水産FEST (0.01)
【SUS施策】PRタイムス (0.01)

2.実証実験の結果

KPIに関する結果

N o.	内容	目標数値 (KPI)	判定	実績数値 (KPI) 実証期間：11/14 (木)～12/4 (水)
01	愛知県のホームページ『愛知県で農業を始めたい人へ』のpv数 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/aichi-nougyou.html	809pv	◎	2,324pv 就農支援サイト 1,555pv 農大トップページ 769pv
02	愛知県のホームページ『説明会の申込み』のpv数 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/aichi-nougyou-setumeikaimoushikomi.html	166pv	×	140pv (※) 農大説明会申込みページ 140pv (※就農支援サイトからの流入 32pv含む)
03	就農支援サイトのバーチャル農業体験者数	243人	◎	292人
04	就農支援サイトのバーチャル農業体験完了者数	49人	×	14人
05	就農支援サイトアンケートによる「コンテンツごとの満足度」	4段階中3以上の割合 60%以上	○ △ ○	就農支援サイト 72.8% おしえてあいちさん 54.6% バーチャル農業体験 63.6%
06	バーチャル農業体験アンケートによる「農業の現実への理解度」	4段階中3以上の割合 60%以上	◎	4段階中3以上の割合 85.7%



実証期間中の告知効果もあり、想定以上の方にアクセスいただき、概ね高い評価をいただけるサイトであったが、バーチャル体験については途中離脱が目立った。

工夫したポイント（就農支援サイト）

農業大学校とサイトタイトルとロゴマークを共同制作し、サイトカラーデザインを適合しました



農業未経験者でも理解できるよう農業用語説明ページを制作しました



工夫したポイント（バーチャル体験）

NTTコノキューが提供するメタバースプラットフォーム「DOOR」を使用し、バーチャル空間を構築しました



施設の構造やいちごの色・大きさ・成熟度を再現しました



体験者の理解を深めるため、各ルーム内に〇×形式のクイズを設置しました



3Dモデル制作のため、実際の農家を見学しました



実証実験で得られた発見

(就農支援サイト アンケートご意見より)

- ▶ 「就農相談の流れ」の中で、説明会に参加するメリットや参加に備えて準備することは何か？「カルテ」とは何か？など気になる点が複数あった。
- ▶ もう少し具体的に就農に関する手続きや農業経営に関するシミュレーションなどができるサイトがあるとよい。
- ▶ 用語検索、畜産のワードも充実してほしいです。さらに詳しく知りたい方はこちらとウィキペディア等に飛ばしてくれると親切だなと思いました。
- ▶ 新規就農者を目指す人にむけ広報に力をいれるのは素晴らしい取り組みだと思います。
- ▶ 実際に研修に行けるスクール、農家一覧（農家側の繁茂期の雇用×新規就農希望者の研修体験のマッチング）など、用語検索などサイト内で完結するコンテンツではなく具体的に就農に役に立つ生きた情報がほしいです。

就農支援サイトは、コンテンツの拡充、経営シミュレーションなど新たな機能の追加が必要

(バーチャル体験 アンケートより)

- ▶ 特に興味のあるいちごについて体験できて有難かった。作業の基準も知れたし、クイズでより詳しく学べてよかった。
- ▶ 実際のハウスの規模感が伝わらない。作業をするのは1列でも、もっと長くすると横の広がりしてほしい。農業の厳しさは伝わりにくい。
- ▶ 操作に慣れていないと苦労するがそれは操作にであって農作業ではない。簡単にできる印象になっている。
- ▶ 定植、摘花、収穫、パック詰めそれぞれの作業量を増やしてほしい。
- ▶ 収穫で腐敗果も取り除こうとあったが、取り除いた果実は黒い袋に入っていなかった。半透明の袋に入るところまで見たい。
- ▶ パック詰めは出荷できない果実をクリックして取り除こうとあったが、それはできなかった。
- ▶ アバターを移動させるのが難しい。
- ▶ この体験の中で示された以外に、天候や病害虫など農業従事者にままならない要素についても気づきがあるとよいと思いました。

バーチャル農業体験は、高評価コメントがあった一方で、実際の農作業の近い体験が求められている

3.課題と今後の展開

（就農支援サイトの課題と解決策）

本サイトは農業大学の農起業支援ステーションサイトへの導線として構築しているが、本サイトまでの誘導、本サイトで完結するシナリオを整備し、就農希望者が離脱せず、ワンストップで情報収集できるサイトを目指したい。

そのためにも、現在のコンテンツの拡充や、新機能の企画および実装により、魅力あるサイトにする必要があると感じます。

（バーチャル体験の課題と解決策）

メタバース操作に慣れていない世代が多いこともあるが、農作業の現実をバーチャルで地道な作業を体験いただくことで伝えるコンテンツにしているため、一般的なエンターテインメント系バーチャル空間よりも途中離脱が多いコンテンツになっている。

空間の分割により離脱を抑止する工夫や、場合によってはコンセプトの再検討（大変さく楽しさ）が必要と感じます。

(就農支援サイト本導入に向けての課題と解決策)

本サイトは現状スクラッチ開発（HTML／CSS）にて実装している。

農業大学校でサイトコンテンツ追加等ができるよう、本番導入にあたり、プログラムの簡素化／標準化が必要です。

(バーチャル体験本導入に向けての課題と解決策)

前述サービスに関する課題より、途中離脱抑制のためのルーム分割等が必要ではあるが、分割によるメタバースプラットフォーム利用料増の影響確認が必要である。

4. 參考資料

- ▶ 愛知県就農支援サイト

<https://noukano-tamago.pref.aichi.jp/> （実証実験用のため、令和6年12月16日に閉鎖）

- ▶ バーチャル農業体験

<https://door.ntt/g5FCqSF/humble-youthful-meet>

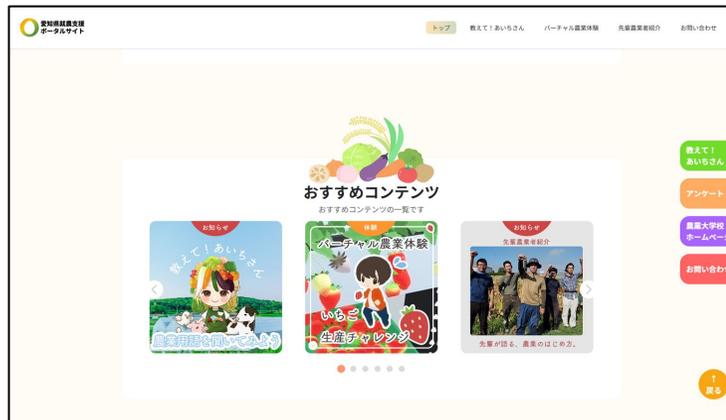
トップページ



おしえてあいちさん



おすすめコンテンツ



バーチャル農業体験



定植ルーム



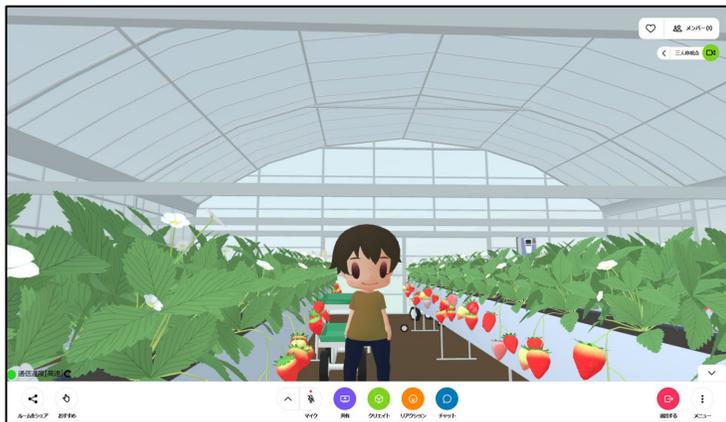
摘花ルーム



〇×クイズ



収穫ルーム



出荷・調製ルーム

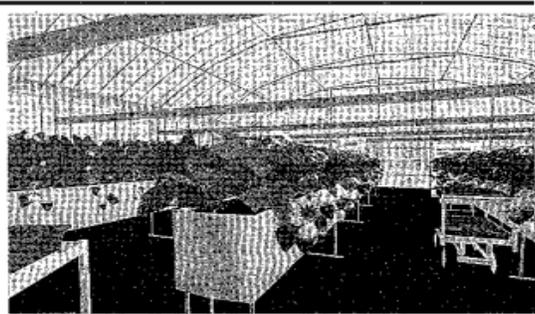


アンケート



日本農業新聞 11月19日付

PRタイムスおよび当社HPお知らせ掲載 11月14日付



バーチャル農業体験ルームの画像

VRで就農手助け

愛知県立農大校とIT企業

【あいち】愛知県立農業大学校とIT企業のエスユーエス（京都市）は14日、就農相談の窓口となるウェブサイト「あつまれ!! 農家のたまご」の試験運用を始めた。就農希望者がバーチャル空間で、管理作業や出荷作業を疑似体験できる。

サイトには、先輩農業者の紹介動画や用語解説、就農相談の流れを解説したコーナーを用意。バーチャル空間では、イチゴの定植、摘花、収穫、出荷・調製を体験できる。

12月4日まで試行し、アクセス数や疑似体験の参加者数、アンケートを行う。

報道関係者各位

PRESS RELEASE

2024年11月14日
株式会社エスユーエス

「AICHI X TECH」による就農相談のデジタル化プロジェクトを開始 ～バーチャル農業体験を通じて、新規就農者の理解を深める～

株式会社エスユーエスと愛知県立農業大学校は、愛知県における行政の課題を民間のICTを活用して解決する協働プロジェクト「AICHI X TECH（アイチクロステック）」において、就農希望者の相談をデジタルで解決するプロジェクトに取り組みます。本プロジェクトでは、就農希望者に農業の実情を正しく理解してもらうためのサイトを構築し、バーチャル農業体験を提供します。




サイト「あつまれ農家のたまご」（左）とバーチャル農業体験（右）

愛知県の現状と課題

愛知県では、基幹的農業従事者が2015年からの5年間で15,289人減少し、特に65歳以上の高齢層が担い手の65.8%を占めています。このため、新たな担い手の確保と育成が喫緊の課題となっています。2021年度から農業大学校の農起業支援ステーションで就農相談を行ってきたものの、多くの就農希望者は農業経験がなく、農業経営の現状を知らずに相談に訪れるため、就農に結びつくケースが少ない状況です。

試行運用の概要

今回のプロジェクトでは、就農に関する情報提供として、就農希望者が専用サイト内のバーチャル空間で農業生産や出荷作業を疑似体験できるデジタルコンテンツを配信します。このデジタルコンテンツにより、農業経営に対する理解を深めることができます。

今後の展望

このプロジェクトを通じて、就農希望者の相談が具体化し、最終的には就農へとつながることを目指しています。デジタルコンテンツの活用により就農希望者が農業の現状を理解し、自身の適性や実現可能性を把握できるようになることで、意欲ある多くの担い手を確保・育成できる未来を描いています。

【試行運用について】
 実証期間：令和6年11月14日（木）～令和6年12月4日（水）
 ポータルサイト：<https://noukano-tamago.pref.aichi.jp>
 効果検証：サイトへのアクセス数、バーチャル農業体験者数、アンケート調査など

【お問合せ先】
 1 株式会社エスユーエス
 本店所在地：京都市下京区四條烏丸通東入ル長刀鉾町8 京都三井ビルディング5階
 問い合わせフォーム：<https://www.sus-q.co.jp/contact/>

2 愛知県立農業大学校企画研修部就農企画科（農起業支援ステーション）
 所在地：愛知県岡崎市美合町字並松1-2
 電話：0564-51-1034
 E-mail：noudai@pref.aichi.lg.jp

■エスユーエスについて	
本店所在地	京都市下京区四條通烏丸東入ル長刀鉾町8 京都三井ビルディング5階
代表者	代表取締役社長 齋藤 公男
設立年月日	1999年9月1日
資本金	4億3,600万円（2024年3月31日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■IT分野・機械分野・電気/電子分野・化学/バイオ分野におけるエンジニア派遣・開発請負 ■AR/VR教育およびAR/VRソリューション開発・販売 ■AI教育およびAIソリューション ■ERP分野におけるコンサルティング・システム開発・導入支援 ■その他ITを活用したサービス事業
URL	https://www.sus-q.co.jp/
お問い合わせ窓口	総務部広報担当 (Mail： soumu@m.sus-q.co.jp / Tel：075-229-7407)